

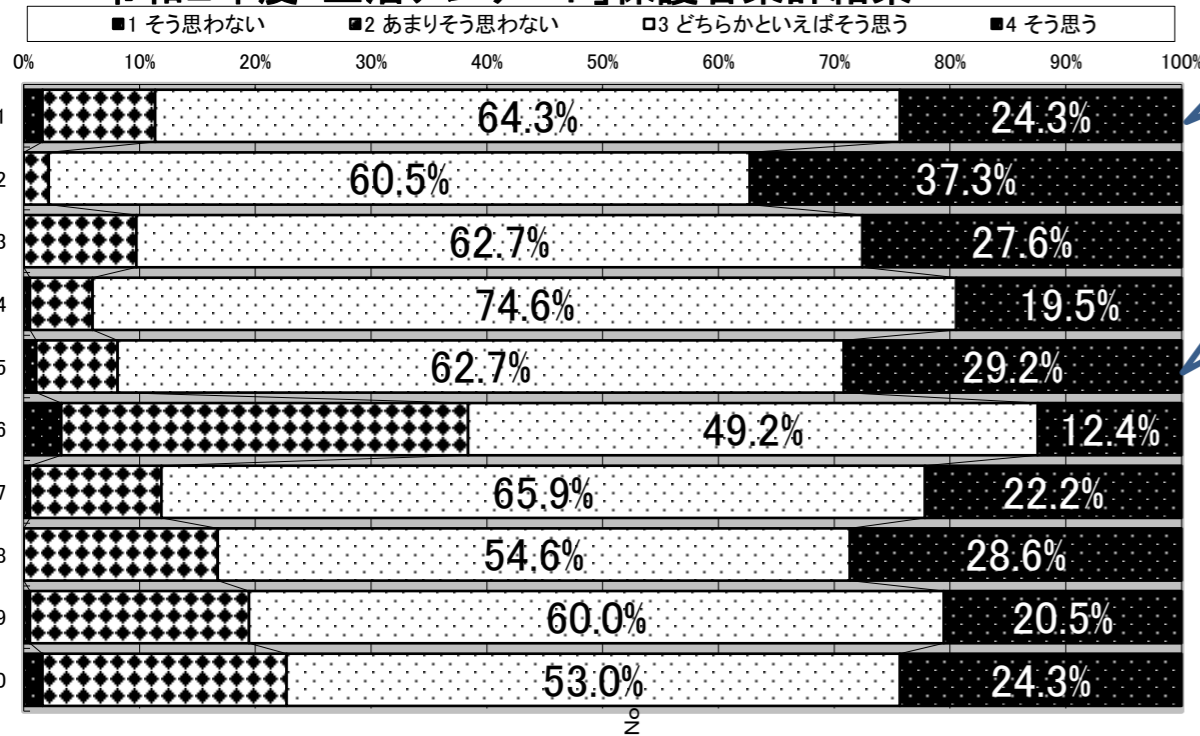
# 令和2年度 六つ川西小学校 学校評価 報告

令和3年3月12日

今年度、実施した「生活アンケート」の結果を報告いたします。本校の教育活動のねらいに対する達成度をはかる指標のひとつとなりますので、ぜひご一読いただき、今後ともよりよい学校づくりにご協力をお願いいたします。

質問項目	考察
1 (お子さんは、)先生や友達の話をよく聞いて、学習内容を理解することができますか。	90%以上の児童と88%の保護者が学習内容を理解できていると感じている。3, 4の割合を増やすための日々の授業改善、個別に対応した学習支援をより一層進めていくことが必要である。
2 (お子さんは、)学年の友達や他の学年の友達を大切にしていますか。	児童、保護者ともに98%と、最も「できている」と答えた割合が高かった。日々の学級指導を通じて、児童が他者意識をもち豊かな関わりができるように支援してきた成果と考えられる。来年度も引き続き様々な人との関わりを大切に支援していくとともに、今年度実施できなかった集団宿泊行事、たてわり活動などを通じて、豊かな心を育んでいく。
3 (お子さんは、)健康に過ごすために、しっかりと手洗いしたり、規則正しい生活をしたりしていますか。	手洗い・うがいを徹底するなど、感染症対策をしっかりと指導、支援したことを通じて、児童一人ひとりに規則正しい生活への意識が高まりを感じる。インフルエンザ・ノロウイルスなどの流行や学級閉鎖も無かった。
4 (お子さんは、)自分と友達のちがいを認め、だれにでも分けへだてなく接していますか。	89%の児童、94%の保護者が「できている」と答えている。道徳の授業や日々の学級指導を通じて他者意識をもち豊かな関わりができるように支援していきたい。
5 (お子さんは、)学校や学級のきまりをまもりながら、落ち着いた生活ができていますか。	87%の児童が「そう思う」と答えていることから、全校通じて児童の規範意識は育っているといえる。年度当初から職員全体で「学校のきまり」をもとに、学級指導に取り組んでいる。さらなる指導の強化に努めたい。
6 (お子さんは、)地域の方々に自分からあいさつをしていますか。	児童の自己評価は77%と高い結果であるが、40%近い保護者は「そう思わない」との結果である。児童と保護者の答えに最も乖離のある項目である。現状、自分から進んであいさつできる児童は少ないと感じている教職員も多い。来年度は「自分からあいさつできる子ども」も重点取り組みの一つとして取り組んでいく。
7 (お子さんは、)友達に受け入れられ、いじめのない安心した学校生活を送ることができていますか。	去年のアンケート結果に比べて、「できていない」と答えた児童が大幅に減った。いじめは絶対に許さないと全職員で毅然とした態度で臨み、小さな案件も見逃さず指導している。この項目では特に少数意見を重く受け止め、今後も子どもたちが安心して育てる過ごせる集団作り・環境作りに取り組んでいきたい。
8 (お子さんは、)夢や希望をもち、様々なことに興味や関心を広げていますか。	小中学校9年間を通じて、自分の将来を見通しながら興味関心や夢を積み重ねていく活動である「自分作りパスポート」の取り組みも新たに始まった。1, 2と回答した児童が15%近くいる。未来に希望をもてる子どもを育てていきたい。
9 (お子さんは、)クラスや友達のために自分ができることを考え、進んで行動することができていますか。	他の項目と比べると、児童・保護者ともに達成感が低い。今年度は活動や行事に制限があり、考えていても行動に移せない場面があったと考えられる。毎年行っている地域清掃などの勤労奉仕活動もできなかった。来年度は良いと思うことを行動にうつすことを価値付けて、子どもたちを育てていきたい。
10 (お子さんは、)ゲーム・インターネットの使い方について話し合い、約束を決めて生活ができていますか。	保護者の回答で「そう思わない」2番目に多い項目となった。ゲーム・インターネットに依存している傾向の児童も見られる。使い方やルールの作り方についても家庭と学校の連携を強化していきたい。8とも関連付けて幅広く興味関心をもてる子どもを育てていきたい。

### 令和2年度「生活アンケート」保護者集計結果



昨年度「そう思う」と答えた保護者は77%だった。今年度は88%を超え、学習が充実したと感じる保護者が増えた。

昨年度は30%近くの保護者が「できていない」と回答している。今年度は8%と大幅に減った。児童の規範意識が高まったと感じている結果となった。

昨年度は低学年の児童が20%近く「できていない」と回答している。今年度は11%と減った。いじめのない安心して通える学校になってきている。しかし、全校児童の約1割 40人近くが「安心して学校生活を送ることができていない」と、とらえ、重く受け止める必要がある。一層、一人ひとりに寄り添った児童支援が求めら

### 令和2年度「生活アンケート」児童集計結果

